

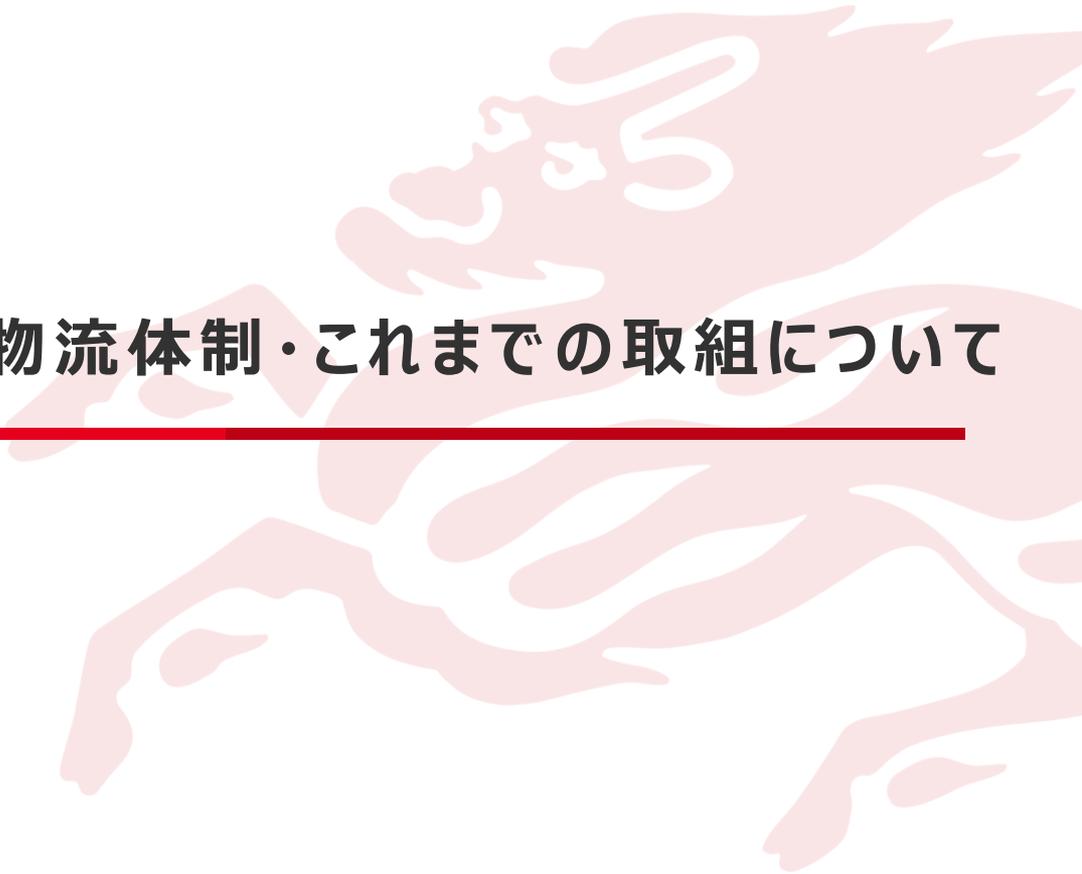
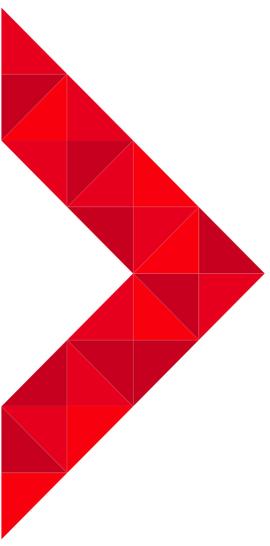


KIRIN

よろこびがつなぐ世界へ
Joy brings us together

キリングループ 物流の取組について

2024年5月31日

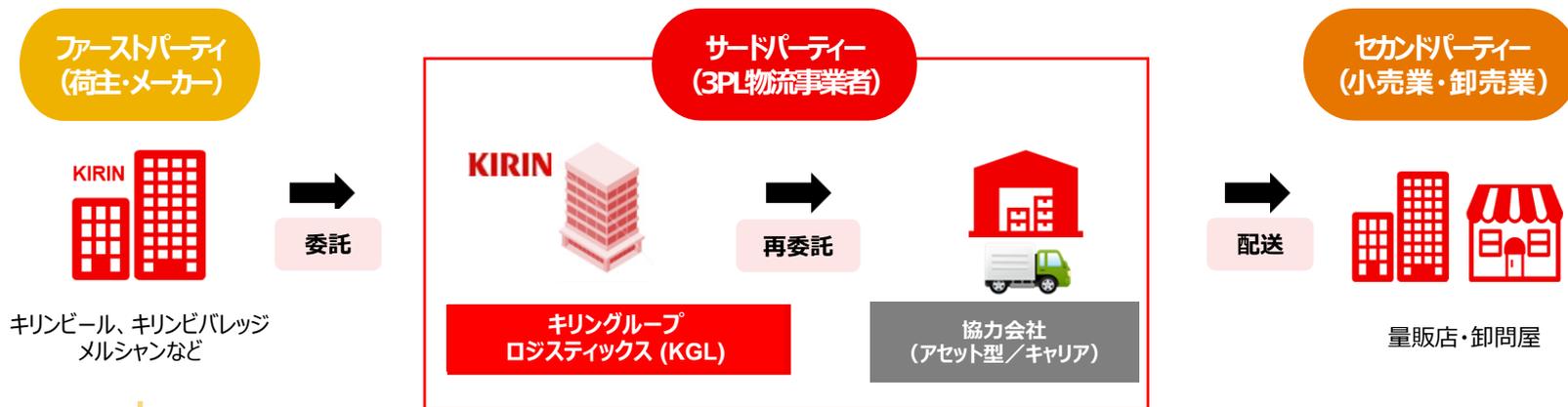


キリングroupの物流体制・これまでの取組について

Joy brings us together

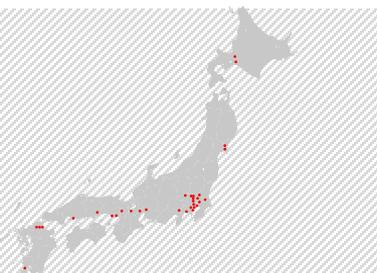
キリングループの物流体制について

- KGLはトラック・フォークリフトを所有しない3PL*の物流業者として、国内キリングループ事業会社の物流機能を担っている。
- 国内事業会社の物流拠点と50拠点を超えるネットワークを駆使し商品を流通させている。



国内事業会社 物流拠点 (委託先含む)

キリンビール 物流拠点	9工場 + 7センター
キリンビバレッジ 物流拠点	44工場 + 35センター



これまでのキリングループの物流取組について

- ▶ ドライバー不足が深刻化する中、物流機能では、輸送を減らす、待機時間を減らす取り組みを中心に、安定してお客様に製品を運びきることでグループ貢献してきた。



輸送を減らす

- ▶ **出荷拠点間の転送を削減**
 - 2022年キリンビール仙台工場でのRTD製造開始
- ▶ **他ブロックからの長距離輸送を削減**
 - キリンビバレッジで、工場毎の製造可能品種を追加
 - メルシャンで、藤沢工場の出荷エリアを拡大
- ▶ **場外製品保管を削減**
 - 各工場の製品保管能力を向上させる
 - 在庫量を低減する



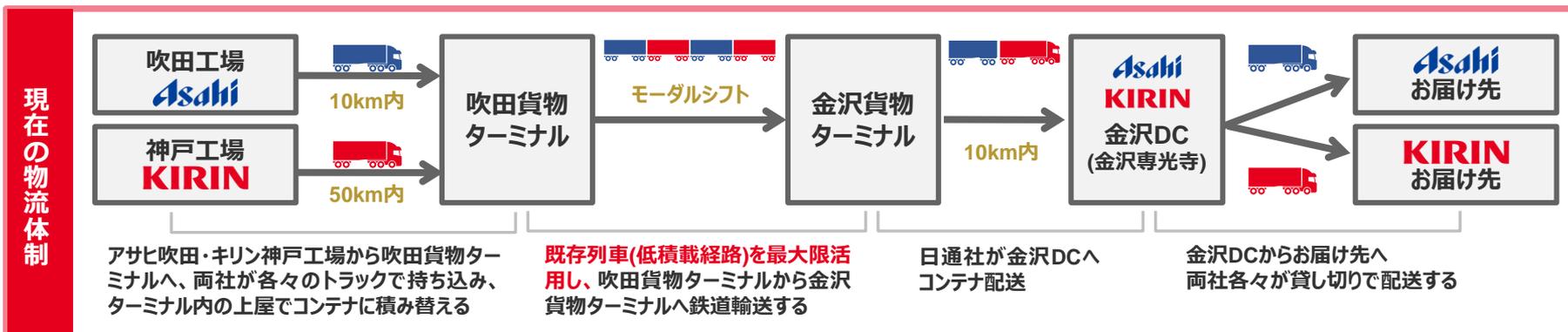
待機時間を減らす

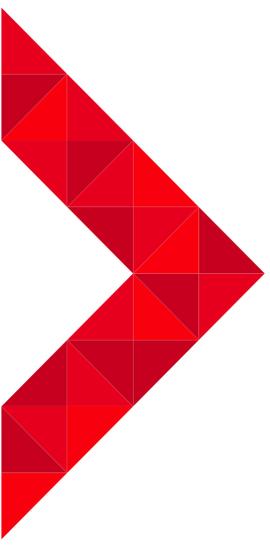
- ▶ **構内待機時間削減**
 - 出荷拠点のレイアウト見直しによる積み込み回数削減
- ▶ **庭先待機時間削減**
 - 出荷先での「検品レス」「入荷予約システム」の取り組み

共同配送の取組について

- ▶ 自社グループだけでなく、他企業・お客様を巻き込みながら様々な取組を進めている。
- ▶ アサヒビール社との取り組みでは、両社の主な供給工場を関西エリアへ変更し、配送センター開設及び鉄道コンテナによる在庫補充によって、安定的な物流体制構築と環境負荷低減を両立している。

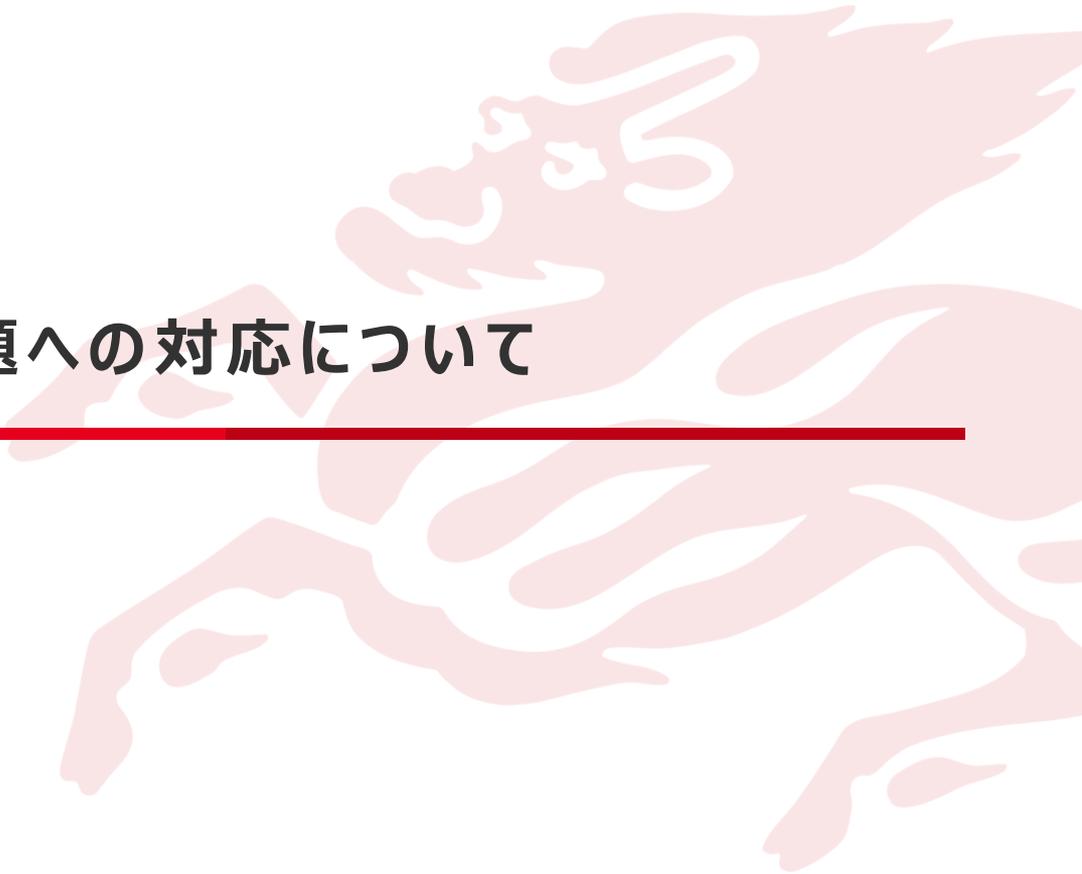
● アサヒ・キリンの2社が協業範囲を拡大した取り組み





物流2024年問題への対応について

Joy brings us together



2024年問題とは

2024年4月1日からドライバーの時間外労働時間が
年間960時間に制限されることで生じる、
運送・物流業界の諸問題

懸念される影響

01 運送会社 売上・利益の減少

02 荷主 運賃上昇

03 ドライバー 収入減 ⇒ 離職

- 厚生労働省が公表している調査結果から、合計 18.3%のトラック事業者において、1日あたり時間外労働時間が4時間を超えている状況にある
- 1ヶ月あたりの労働日数を20日と仮定した場合、1日あたり時間外労働時間が4時間だと、年間時間外労働時間は960時間となる
- **約2割弱のトラック事業者が、現状2024年4月以降に適用される時間外労働時間の上限規制に対応できないことを意味する**

- 輸送・配送能力強化と拠点能力強化に取組み、24年問題の影響軽減に繋げていく。

輸配送能力強化 × 拠点生産性強化



01

必要台数の確保

- 運賃改定
- 配車システムリニューアル
- ドライバー環境改善
- 長距離路線対応



02

限られた車の有効活用

- 拠点能力可視化
- ピッキングシステム改修



03

構内作業体制の強化

- 構内作業契約の改革

必要台数の確保- 2024年運賃改定

- 2024年4月施行のドライバー労働時間規制強化により、ドライバーの労働時間等が規制の基準を超過する場合、追加的な運行が行えない状況（運行生産性の低下）が発生する恐れがある。
- 輸送パートナー会社の安定的な運収維持を目的として、車型車建制への変更及びエリア別の運行生産性低下の状況を踏まえ、グループ貨物の大型車の運賃改定を2024年4月より実施する。

2020年比 運賃上昇率

平均

10.3%

燃料支援金、店頭待機・荷役割増、
タリフ改定の合計

※エリアによって異なる

運賃計算方法の変更

従来 : 距離制重量個建制

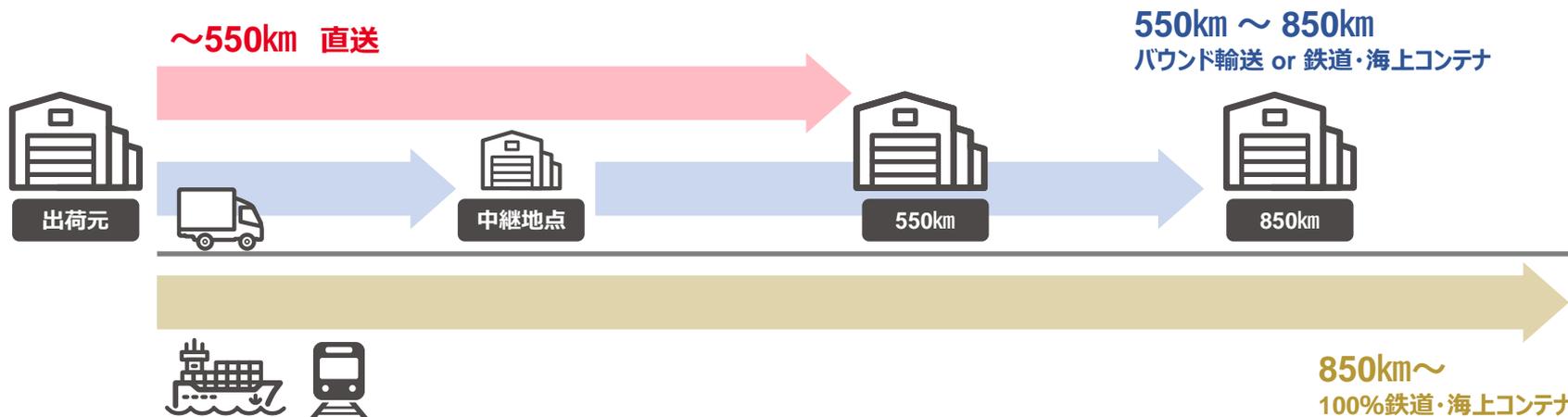
改定後 : 距離制車型車建制

荷量に関わらず安定した運賃収入を補償

必要台数の確保—長距離路線対応

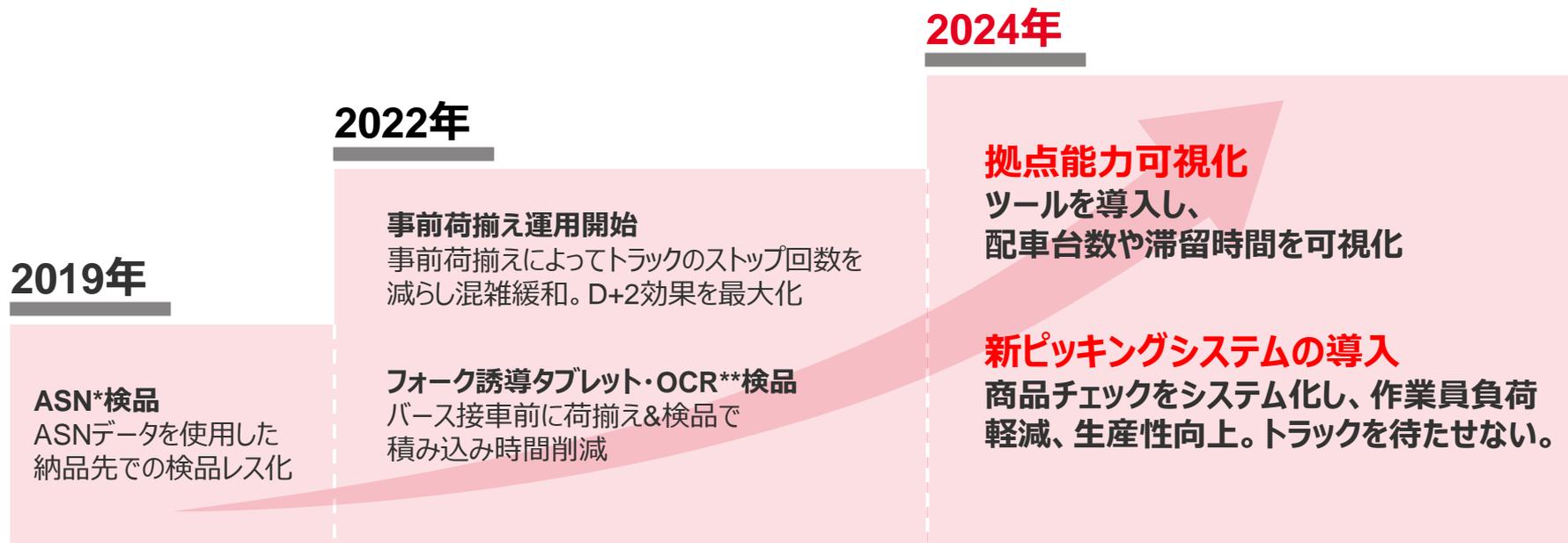
- ▶ 1運行可能な550km未満については従来通りトラック輸送を継続する。
- ▶ 550km以上については中継拠点を設置（全国4か所）してバウンド輸送を行うか、鉄道・海上コンテナでの輸送を行うものとして調整を進めている。ただし850km以上については、バウンド輸送ではなく、100%鉄道・海上コンテナでの輸送を目指す。

長距離路線における運送手段選定方法



限られた車の有効活用 – 取組の概要

- ▶ トラックを「待たせない」ことで運行生産性向上を目指す。
- ▶ 当社拠点における構内滞留と納品先における店頭待機の2点をターゲットに削減施策を実行。



*Advanced Shipping Notice :ベンダー(納入業者)が物流センター側に出荷情報を事前に通知すること。データには「入庫予定日」「発注番号」「商品コード」「入庫数量」等が含まれる

**Optical Character Recognition : 活字や手書き文字などを画像データとして取り込み、編集可能なテキストデータ(文字コード)に変換する技術

構内作業体制の強化

- ▶ 当社は輸送だけではなく拠点管理においても、構内作業会社の協力のもとキリン品質・安全第一のサービスを提供してきた。
- ▶ しかし、物流業界の人手不足は深刻化しており、既存構内作業会社においても人財確保が困難になる可能性は高い。将来にわたって作業完遂できる関係性を維持していくために構内作業契約の改革を実施する。

2023年

済

人件費単価の改定

エリア別の賃金・物価上昇率を加味して
人件費単価をアップ

2024年

作業配置時間の適正化

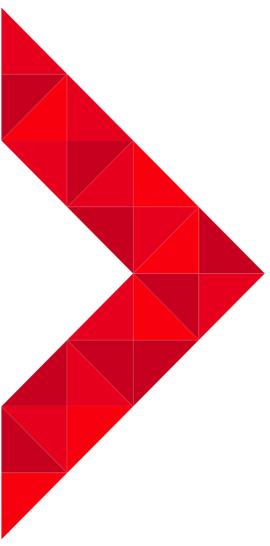
必要な時間に必要な人員を配置

目指す姿

中長期の適正コストでの
作業力維持

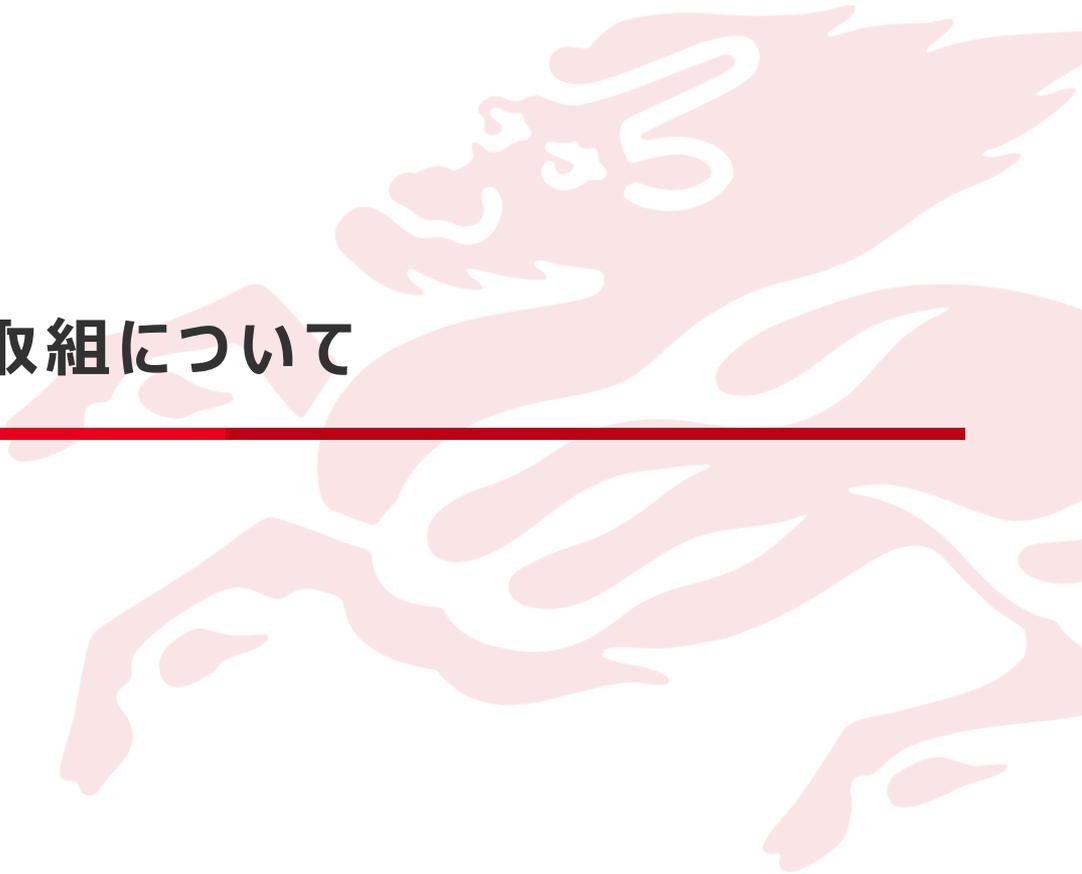
×

コスト構造の透明化



今後の課題への取組について

Joy brings us together



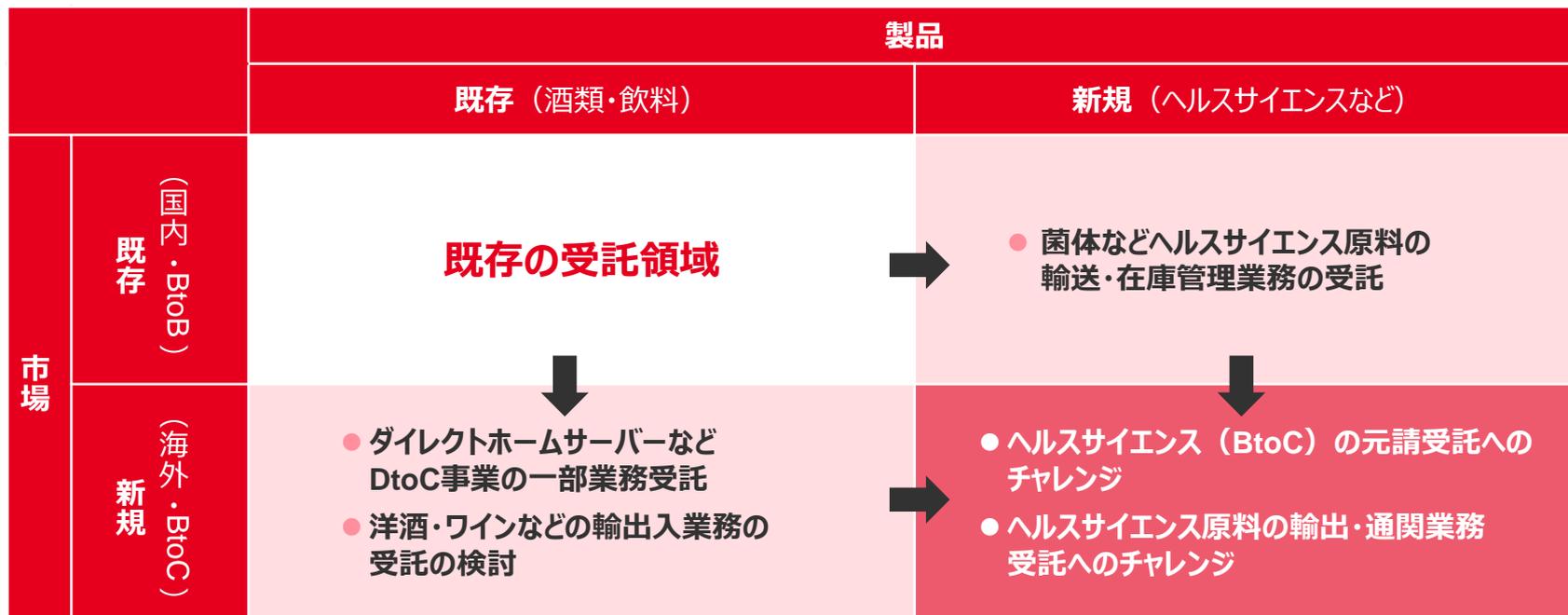
DX推進の取り組み事例

- 適切なシステム選択と導入したシステムの効果的活用により、業務高度化・省力化を図り持続可能な物流を構築する。
- 2024年は物流DX企画人財の育成と並行して、『全員デジタル人財』を掲げ、各自がデジタルを活用したプロセス改善ができる状態を目指す。



グループ未受託領域の獲得

- ▶ グループの成長戦略【ヘルスサイエンス事業、新規（BtoC）事業・輸出】と連動して物流受託領域を拡大していくことで、サプライチェーン機能の貢献度を更に高めていき、グループとともに成長を目指す。
- ▶ 現在のKGLの強みを活かせる領域から段階的に受託領域を拡大していく。



人材育成を通じた組織能力強化

➤ 多様な価値観を持った人財の活用や創造性とイノベーションの促進により魅力ある会社を目指している。

目指す姿

創造性と
イノベーションの促進

多様な視点での
意思決定促進

人財確保の
競争力向上

目標

早期
キャリアアップ^o

女性経営職比率
2030年 **30%**

ワークライフバランス
確保

具体的な 取り組み

リーダー養成研修
(選抜型)

KGL Women's College
(選抜型)

男性育休取得
推進

この資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

This material is intended for informational purposes only and is not a solicitation or offer to buy or sell securities or related financial instruments.



よろこびがつなぐ世界へ Joy brings us together